



かんのわのなのこくおう  
「漢委奴国王」の金印は、だれが発見したの



福<sup>しかのしま</sup>岡県の志賀島で、江戸時代に<sup>じんべえ</sup>甚兵衛という農民が発見したんだよ。

志賀島の田で、甚兵衛が発見した

金印の発見場所は、福岡県の博多湾の入り口にある、志賀島です。江戸時代の1784年2月23日、志賀島の甚兵衛という農民が、田の境のみぞを修理しようと、岸をほったら、大きな石が出てきました。その石をどけると、下の石の間にあつたのです。3月に、この評判を聞いた、<sup>こおりぶぎょう</sup>郡奉行の津田源次郎<sup>つだげんじろう</sup>によび出されて、金印を提出させられ、結局は、<sup>くろだはん</sup>黒田藩（福岡藩）のものになりました。そのかわりに、<sup>しろがね</sup>甚兵衛は白銀5枚（50枚ともいわれる）をもらいました。今は、国宝に指定され、福岡市博物館に展示されています。

本物とされているが、にせ物という説もある

5世紀前半に中国で書かれた「<sup>ごかんじょういでん</sup>後漢書東夷伝」の中に、<sup>こうぶてい</sup>後漢の光武帝が、紀元57年に、<sup>わなこく いんじゆ</sup>倭の奴国に印綬（役人の身分を証明する印と、それを身につけるための組みひも）をさずけたことが、書かれています。そこで、「後漢書東夷伝」に書いてあるものが、1700年後に、<sup>きず</sup>傷もなくほり出されるとは、話がうますぎるので、にせ物ではないかと<sup>うたが</sup>疑う人々が現われました。また、「漢委奴国王」の中の「<sup>わのなこく</sup>委奴国」は、どの国をさすのかについても、<sup>やまと</sup>大和（奈良県）とする説、<sup>いとこく</sup>伊都国とする説などが現われました。今は、この金印は本物で、福岡市付近にあつた<sup>わのなこく</sup>奴国の王にさずけられたもの、とする説が有力です。しかし、にせ物ではないかという<sup>うたが</sup>疑いも、まだ続いています。



なぜ、うめられたのか、についても、なぞなんだよ。



金印の文字